

ウェイアンドアイフォーラム 第5回 レポート

Way&I Forum

開催日時:2015年7月16日(木) 13~17時
会場 : N E C 本社ビル43階 共創型ワークショップスペース
参加人数:16名
主催進行:株式会社ウェイアンドアイ 代表取締役 馬橋 和弘
テーマ : ソーシャルイノベーション

ゲストスピーカー講演:

特定非営利活動法人オトナノセナカ 代表理事 小竹めぐみ 氏 (合同会社こどもみらい探求社 共同代表)

特定非営利活動法人オトナノセナカ 事務局 柳橋 歩 氏 (日本電気株式会社 経営企画本部 主任)



■オリエンテーション

【テーブルには駄菓子。今回の席決めカードは?】

今回は保育士でもあるゲストスピーカー小竹さんにちなんで
テーブルには駄菓子を並べました。

恒例の席決めカードはラムネ、かき氷、ヨーヨー、金魚の4種。
夏の風物詩「縁日」の屋台さながらの雰囲気でした(笑)。

童心に戻りますね!



【チェックインのテーマは「こどもの頃、夢中になったこと」】

さらにチェックインの一人ひとりとタイムでは、「こどもの頃、夢中になったこと」。

例えば、アニメのキャラクターや昔やった遊びの話など、
自然と会場全体に笑顔の花が咲いていました。

■ゲストスピーカー講演 1

特定非営利活動法人オトナノセナカ 代表理事 小竹めぐみ 氏
(合同会社こどもみらい探求社 共同代表)



ファシリテータの馬橋の紹介で
小竹めぐみさんのご登壇です。
冒頭に、貝殻を使ったワークを行いました。
自分の選んだ貝殻を手に取り、
貝を主人公にストーリーを創りました。
ワークを通じ、貝殻一つ一つに個性や違いがあり、
オンリーワンであると感じ、
自然と愛情が育まれていくようでした。



後半は講演スタイルでお話をお聞きしました。
禅の教えと出会い、学んだこと、世界の国々を旅する中で気づいたことや感じたこと、子どもたちから教えてもらったことなど、きれいな映像と共に語られました。
そして、ソーシャルイノベーションにつながる、
オトナノセナカやこどもみらい探求社での取り組みを紹介いただきました。
講演を聞きながら、大人になるにつれ、いつか忘れてしまったものを思い出し、
穏やかなあたたかい気持ちになっていく、そんな素敵な時間でした。
子どもたちに「そのまんま大きくなってね」と言える社会を創っていく…、
そんな志を伝えてくれた講演でした。

■ゲストスピーカー講演 2

特定非営利活動法人オトナノセナカ 事務局 柳橋 歩 氏
(日本電気株式会社 経営企画本部 主任)



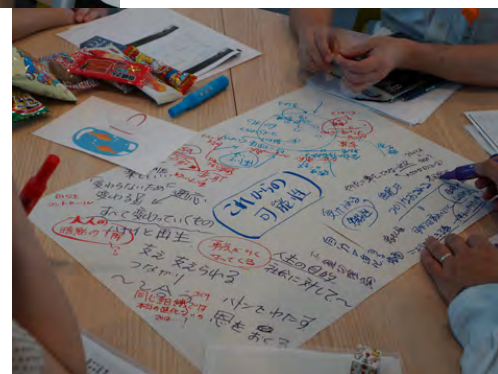
当フォーラムではおなじみのNEC経営企画本部の柳橋さん。実は、NPO法人オトナノセナカの事務局としても活躍されています。講演では、オトナノセナカに参画したきっかけ、参画したことで起こった自分の変化、さらには、家族の変化などが語られました。印象的だったのは、「自分の感情を客観的に見られるようになった」「自分に素直になれている気がする」の言葉。お話を聞きながら、いきいき楽しい雰囲気が伝わりました。そして、家族の絆が育まれる様子が頭の中に映像として浮かぶようでした。

さらには、NPOでの活動における気づきや学びが仕事の成果にも直接的間接的につながっていることを大変興味深くお聞きしました。企業人・組織人として、今後の生き方やワークライフバランスを考える中で、仕事でも、私生活でも、充実している柳橋さんのように3rd プレイスを自分なりに見つけていくことが、より良い人生を送る上で大切になってくるとあらためて共有できました。



■ダイアログ&ブレイクタイム

オトナノセナカでは「井戸端会議」と呼ばれるスタイルにて、「今後の可能性」をテーマにダイアログ、そして、サークルになり、気づきと学びを共有しました。



【最後に】

今回は「子どもも大人も凸凹(違い)を認められる社会の実現」を目指し、ソーシャルイノベーションに貢献しているオトナノセナカのワークショップの一部を皆で体験。いつもとさらに違った対話空間を共有できました。

【参加者の声】

- ・何かが生み出される時には「対話」が重要であることがよく理解できました。
- ・「うまくいっている時はコミュニケーションはいらないが、うまくいっていない時こそコミュニケーションが「重要」ということは、非常に参考になりました。
- ・「自分ができることは何だろう」と考える時間をいただきました。
- ・「子供は大人の鏡である」という考え方には大共感します。
- ・自分も家族も仕事も良くなる暮らし方のコツのようなものを伝えていただきました。
- ・「分からないこと」=「向き合おうとすること」、これって大事な姿勢ですね。



小竹さん、柳橋さん、
ありがとうございました！

ご参加の皆さん、ありがとうございました。次回もお待ちしております！

写真：井上正己